

溝上 慎一の教育論(動画c) Number 1

新プロジェクト  
「溝上 慎一の教育論(動画c)」のキックオフ

溝上 慎一 Shinichi Mizokami, Ph.D.

学校法人桐蔭学園 理事長  
桐蔭横浜大学 学長・教授

<http://smizok.net/>  
E-mail [mizokami@toin.ac.jp](mailto:mizokami@toin.ac.jp)

学校法人河合塾 教育研究開発本部 研究顧問

【プロフィール】 1970年生まれ。大阪府立茨木高校卒業。神戸大学教育学部卒業、1996年京都大学助手、2000年講師、2003年准教授、2014年教授を経て、2019年4月より現在に至る。京都大学博士(教育学)。

\*詳しくはスライド最後をご覧ください



※本動画は溝上が個人的に作成・提供するものです

## 趣旨と目的

- ウェブサイト「溝上慎一の教育論」の拡張
- 話はわかりやすいが、文章は難しいという声に多少応えたい
- 講演やセミナー後の振り返り、Q&Aをしたい
- 心理学の授業をしたい
- その他

ようこそ！「溝上慎一の教育論」のウェブサイトへ  
サイトポリシーをご了解の上お読みください。

溝上慎一の教育論：目次	(更新情報) (New は過去1週間以内の更新ページにつけてあります)
2021年11月29日更新	[用語集]
2021年11月29日更新	[理論] (アクティブラーニング等のトピックについて理論的に概説するページです)
2021年12月17日更新	[講話] (アクティブラーニング等のトピックについてフリースタイルで論じる雑考ページです)
2020年1月18日終了	[AI研修の実践] (原則として溝上や森朋子氏が実際に見学したAI型授業を紹介しコメントをつけています)
2021年10月9日更新	[データ]
2020年6月6日更新	bulinメーリングリストでの教育イベント等のご案内
2021年6月21日更新	[文庫科学者推薦の文庫寄]
2021年9月14日準備中	[Student Learning and Development: Education in Japan]
2018年11月9日終了	[術科学園の教育改革] (中学校：柳隆学園が執筆・編集します)
2020年5月19日終了	[教育コロナ会議] (術科学園トランジションセンターが運営、溝上が主催する会議です)

ウェブサイト「溝上慎一の教育論」  
<http://smizok.net/education/>

## テーマ

- 学校教育の「学びと成長」に関するテーマ

アクティブラーニング      深い学び      探究的な学習      キャリア教育

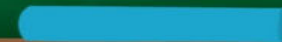
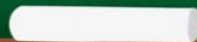
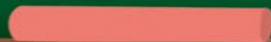
学校から仕事・社会へのトランジション      政府の施策など

- 心理学に関するテーマ

自己・アイデンティティ形成      青年期・青年心理学

人の発達      パーソナリティ発達

(最近)エージェンシー      ウェルビーイングなど

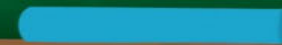


ご視聴有難うございました

質問、コメントは個人メールで受け付けます。

E-mail [mizokami@toin.ac.jp](mailto:mizokami@toin.ac.jp)

- お名前、ご所属
- ※可能なら専門や教科、職位なども教えてください、解答の助けになります。
- 質問、コメント等



学校法人桐蔭学園 理事長  
桐蔭横浜大学 学長・教授

1970年生まれ。大阪府立茨木高校卒業。神戸大学教育学部卒業、1996年京都大学助手、2000年講師、2003年京都大学准教授、2014年教授を経て、2018年9月に学校法人桐蔭学園へ。2019年同理事長、2020年より現職。京都大学博士（教育学）

日本青年心理学会理事、大学教育学会理事、“*Journal of Adolescence*” Editorial Board委員、文部科学省高等教育局スキームD（座長）、中央教育審議会初等中等教育局臨時委員、総合教育政策局リカレント教育審査委員、大学・高校の外部評価・指導委員など。日本青年心理学会学会賞受賞。

専門は、青年・発達心理学・教育実践研究（自己・アイデンティティ形成、自己の分権化、学びと成長、アクティブラーニング、学校から仕事・社会へのトランジション、人生100年時代のキャリア形成など）。著書に『自己形成の心理学—他者の森を駆け抜けて自己になる』（2008世界思想社、単著）、『現代青年期の心理学—適応から自己形成の時代へ』（2010有斐閣選書、単著）、『アクティブラーニングと教授学習パラダイムの転換』（2014東信堂、単著）、『アクティブラーニング型授業の基本形と生徒の身体性』（2018東信堂、単著）、『学習とパーソナリティ—「あの子はおとなしいけど成績はいいんですよね！」をどう見るか—』（2018東信堂、単著）、『高大接続の本質—「学校と社会をつなぐ調査」から見えてきた課題—』（2018学事出版、編著）など多数。

<http://smizok.net/>



# 著作紹介

溝上慎一 (2020). 『社会に生きる個性—自己と他者・拡張的パーソナリティ・エージェンシー—』  
(学びと成長の講話シリーズ3) 東信堂

## 第1章 自己と他者の観点から見る学びと成長

1. 人の発達において他者理解は自己理解に先立つ
3. 自己とは——他者との対峙を通して発現する一個存在
6. 講義—辺倒の授業における学習においてさえ他者は組み込まれている
7. 学習プロセスに他者を組み込む——ペア・グループワークはなぜ求められるのか
9. リフレクション（振り返り）はメタ認知を働かせた言語活動
10. 自己内対話と学習

## 第3章 エージェンシー

1. OECDの学習者のエージェンシー
3. バンデュラのエージェンシー論—四つの特徴
5. 自己肯定感を高めるのではなく、自己効力感（エージェンシー）を高めよ
6. 内発的動機づけ・自己決定理論——主体的な学習の第I～II層
7. 記憶の情報処理から見た学習—自己関連づけ・自己生成

## 第4章 教育雑考

2. 自分が生徒の時にはアクティブラーニングをしてこなかった。なぜ今の生徒にここまで求めるのか
3. 社会に生きる個性を育てる——教授パラダイムと学習パラダイムに関連づけて
4. 生徒はアクティブラーニングを熱心におこなうが、教師は成果としての手応えを感じない。そこで起こっていることは？
5. アクティブラーニングと評価



# 最近の著作紹介

溝上慎一 (2021). 高校生の学びと成長に向けた「大学選び」  
—偏差値もうまく利用する— 東信堂

## 第1部 自身の「大学選び」の質を高める5つのポイント

第1章 Point 1 将来の見通しを持つ

第2章 Point 2 「大学で何を学びたいか」からではなく、「将来どのような職業に就きたいか」から「学部選び」を行う

第3章 Point 3 大学がアクティブラーニング型授業を積極的に推進しているかを調べる

第4章 Point 4 偏差値をうまく利用する

第5章 Point 5 三大都市圏以外の大学を選択肢に含める

第6章 (おまけ) 中小企業はおもしろい!

——ここから職業、「大学選び」を考えてみる

## 第2部 高校生からの質問に答える

